

報道機関各社様

70台を超える車いすを組み上げる大型作品と
市内小中学生×アーティスト×企業のコラボレーション作品を展示！
札幌国際芸術祭 冬のプレイベント@さっぽろ雪まつり大通6丁目会場
展示アーティストによる作品設営現場 取材のお願い

このたび札幌国際芸術祭（略称：SIAF）では、昨年に引き続き「2026さっぽろ雪まつり」（2026年2月4日～11日開催）と連携し、大通6丁目会場において2つの作品を展示します。本展示は、1年後に開催する次回芸術祭・SIAF2027（2027年1月16日～2月21日）に向けたプレイベントとして実施するものです。さっぽろ雪まつり開幕数日前より、アーティストの檜皮一彦、フジ森が参加し、現地で作品準備・設営を行います。雪像制作とはひと味異なるアート作品設営の現場を、この機会にぜひご取材ください。

札幌国際芸術祭 冬のプレイベント@さっぽろ雪まつり大通6丁目会場

2つのアート作品展示を中心に、市民サポーターによるガイドプログラムやユネスコ創造都市ネットワークにまつわるパネル展示を実施します。
会期：2026年2月4日(水)～11日(水・祝) 10:00-20:00
会場：さっぽろ雪まつり大通6丁目会場（西側の一部）

作品①：屋外展示

檜皮一彦《HIWADROME: type_ark_spec3》2026

大阪・関西万博会場内で展示され、注目を集めた話題作。77台の車いすで構成される大型のアート作品が、雪まつりバージョンとなって登場します。制作者であるアーティストの檜皮一彦にとって、車いすは日常に欠かせない身体の一部です。しかし、雪深い冬の札幌を車いすで移動することは容易ではありません。檜皮は、1年後に開催するSIAF2027の参加アーティストのひとりです。SIAF2024では、降雪期における車いすユーザーの作品鑑賞条件のリサーチを行い、2025年10月には「アートとアクセシビリティ」にまつわるトークイベントに登壇しました。そして今回のプレイベントでは、雪の屋外会場での作品展示に挑みます。SIAF、アーティスト、そして鑑賞者が、「誰もが楽しめる芸術祭」や「多様な可能性」について共に考えていく新たなスタートとなるはずです。

制作協力：株式会社 イルカ、後藤雅樹／ジーファクトリー
川村義肢株式会社、浜田英明建築構造設計



檜皮一彦《HIWADROME: type_ark_spec2》2025
EXPO 2025 大阪・関西万博会場夢洲での展示風景

▶ 設営スケジュール（予定）

1月29日(木) 午後：車いすの搬入（70台を超える車いすを現場に並べます）
1月30日(金)～2月2日(月)：車いす組み上げ作業

檜皮一彦

大阪出身。京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻修了。自らの移動手段である車いすをメディアとして用いるインсталレーション作品「HIWADROME」シリーズをコアに、ワークショップやリサーチ等を経て可視化された障壁や、社会に組み込まれている潜在的な勾配に対し、新たな動線の設計という具体的な実践を通じて未来へ架ける「walkingpractice / code_bridge」、車いすの車輪運動を利用したニットを生成する自作マシンを駆り、地面の状態を編み目の変化として記録する「walkingpractice / code_knitting_record」などのプロジェクトを開拓している。SIAF2027参加アーティスト。



作品②：特設テント内展示

フジ森《みんなのコード 雪・木・星+みんなのモンスター》2026

SIAFでは芸術祭を「未来の学校」と捉え、発見・体験・学びを提供するプログラム「SIAFスクール」を2023年より実施しています。その取り組みのひとつが札幌市内小中学校向けの出前授業です。今年度は、アートユニット・フジ森が開発したウェブアプリケーションを使った「プログラミングでアートにチャレンジ」、デジタルペン技術を世界的にリードしてきた株式会社ワコムとSIAFが共同開発した「自分だけの新しいモンスターを作ってみよう～ワコム流アイデアワーク～」という2つのワークショップを実施しました。アートとテクノロジーを活用した出前授業には、計20校1509名の小中学生が参加。子どもたちの自由な発想で制作された個性豊かな成果の数々が、フジ森の手によりひとつのアート作品としてまとめられます（鑑賞の流れを妨げないかたちで、鑑賞者の動きに応じて小さな反応が生まれる仕掛けが含まれます）。



参考作品：
フジ森《みんなのコード[雪・木・星]》2025
Photo by FUJIKURA Tsubasa

出前授業「自分だけの新しいモンスターを作ってみよう～ワコム流アイデアワーク～」
の様子

► 設営スケジュール（予定）

| 2月1日(日)～3日(火)：テント内への機材搬入、作品設営作業



フジ森

藤木 淳と藤木寛子の夫婦による札幌を拠点とするインタラクティブ・アート・ユニット。構想はそれぞれで持ち寄り、藤木 淳がインタラクティブ設計、藤木 寛子がビジュアル構成を担当し、鑑賞者参加型のアート作品を展開している。藤木 淳は独自のアルゴリズムに基づくインタラクティブ作品を、藤木 寛子は映像インスタレーションなど作品を制作。2014年より合作を始め、2019年よりユニット名をフジ森とした。2023年度より、SIAFと協働した出前授業を実施。子どもたちの成果をひとつの作品としてまとめ、SIAF2024および2025さっぽろ雪まつりにおいて展示した。



株式会社ワコム

デジタルペンの技術を通して、「デジタルで描（書）く」体験を提供する「テクノロジー・リーダーシップ・カンパニー」。日本発のワコムのペントタブレット製品は、現在全世界150以上の国と地域で、映画制作や工業デザインのスタジオ、デザイナー、漫画家などプロクリエイターや、市役所窓口、ホテルのチェックイン端末など幅広い用途で使用されている。SIAF2024よりイニシアティブ・パートナーとしてSIAFと協働。教育現場での実践的なワークショップを開発し、2025年度は出前授業として実施した。

上記イベントおよび設営現場の取材のご協力をお願いいたします。アーティストへのインタビューも可能です。他イベントに関する取材も隨時受け付けておりますので、ぜひお問合せください。

► FOR SIAF2027－2026年冬のイベント：<https://siaf.jp/pre-event-2026-winter/>

お問合せ

札幌国際芸術祭実行委員会 担当：杉本・阿部島

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

電話：011-211-2314（平日 8:45～17:15） Fax：011-218-5157 E-mail：press@siaf.jp